



令和5年度（2023年度）
第2回 熊本市公民館運営審議会

審議資料



日時：令和6年(2024年) 3月19日（火） 14時～
場所：熊本市託麻公民館 ホール

目 次

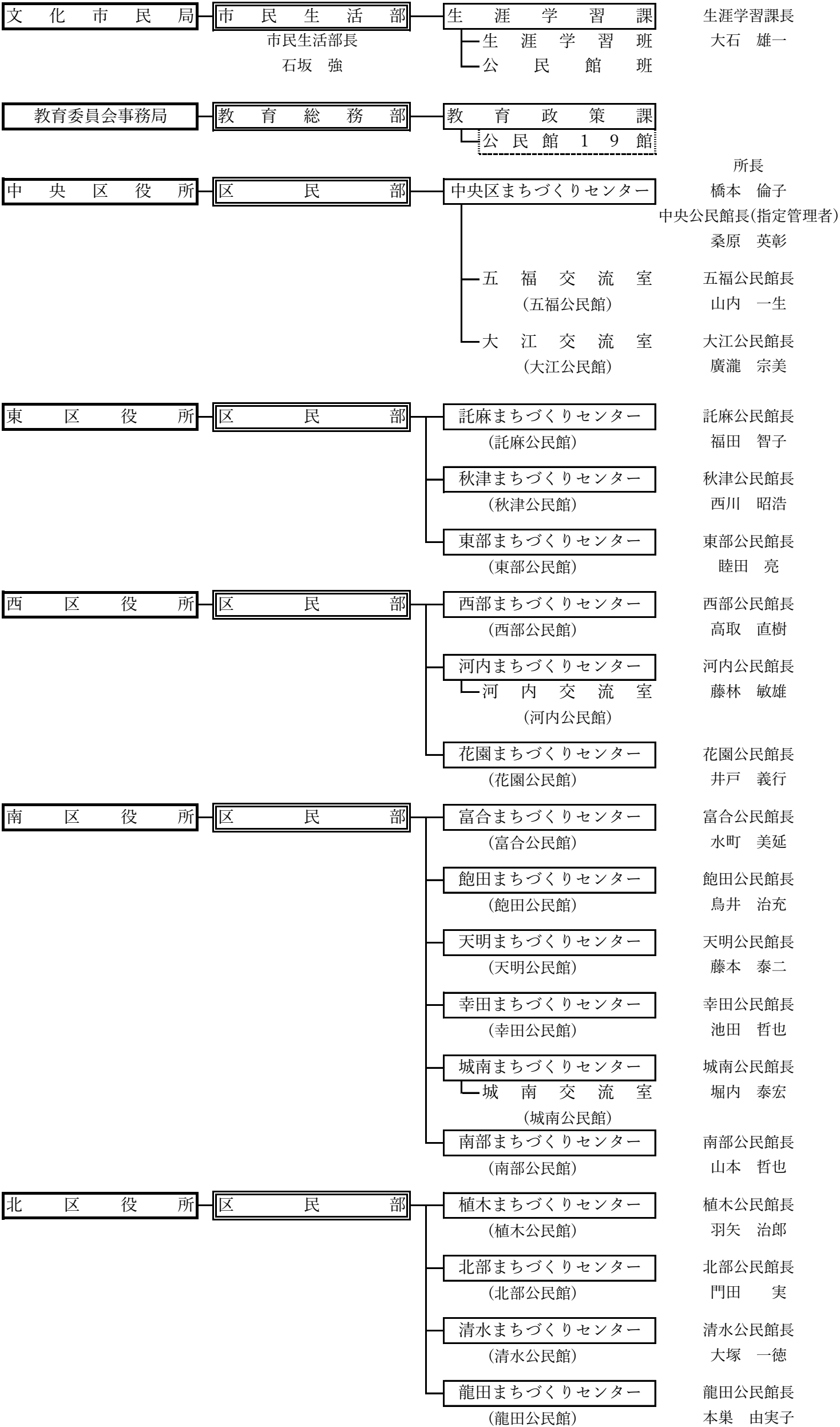
	ページ
熊本市公民館運営審議会委員名簿	1
熊本市公民館関係組織図	2
【議事】	
令和5年度（2023年度）重点事業の実施状況について	3
・『学習機会（公民館講座）の充実』	4
・『地域の教育力を高め合い、まちづくりにつながる事業の推進』	8
・『ライフステージに応じた学びと交流を促進する事業の充実』	13
【報告】	
(1)生涯学習自主講座の運用開始について	17
(2)第2次熊本市生涯学習推進計画の策定について	17

熊本市公民館運営審議会 委員名簿

区 分	氏 名	所属団体・役職等
学識経験者	香崎 智郁代	九州ルーテル学院大学人文学科准教授
学識経験者	澤田 道夫	熊本県立大学総合管理学部教授
学識経験者	藤井 美保	熊本大学教育学部准教授
学校教育	安達 寿夫	熊本市中学校長会 井芹中学校長
学校教育	穴井 佳典	熊本市小学校長会 龍田小学校長
学校教育	村本 博文	熊本市立幼稚園会 向山幼稚園長
社会教育	境内 優利	熊本市青少年健全育成連絡協議会評議員
社会教育	前出 良三	熊本市地域公民館連絡協議会理事
家庭教育	郷原 久美子	熊本市子ども会育成協議会副会長
家庭教育	清水 妃文	家庭教育学級長（画図小学校）
家庭教育	栢木 孝一	熊本市民生委員児童委員協議会副会長
家庭教育	原田 英之	熊本市PTA協議会 常任理事
家庭教育	福島 貴志	熊本市ボランティア連絡協議会副会長
社会教育	城島 理子	市民公募

任期：令和5年（2023年）6月1日から令和7年（2025年）5月31日まで

熊本市公民館関係組織図



I 令和5年度（2023年度）重点事業の実施状況について

変化し続ける社会の中で、市民が生きがいのある心豊かな生活を送れるよう、乳幼児期から高齢期まで各ライフステージに応じた学習機会の充実を図るとともに、その成果を地域に活かすことができる環境を整えることが大切である。

オンライン講座等、新しい生活様式に適応した工夫を凝らしつつ、以下の重点事業に取り組んだ。

令和5年度 重点事業項目

（1）学習機会（公民館講座）の充実

人間性豊かな生活を営むための「現代的課題」や住みよい地域社会をつくるための「地域課題」に対応した学習機会を提供する。

また、大学等の教育機関をはじめ、関係団体等と連携することにより、幅広い分野や専門性の高い講座を実施し、学習機会の充実を図る。

- ① 大学や高校等の教育機関、関係課や関係機関（NPO）等と連携した講座の実施
 - ② 震災での体験や教訓を生かした防災意識を持続させるための講座の実施
 - ③ あらゆる人権課題を踏まえ、人権意識の高揚を図る講演会及び講座の実施
- ＊県・市ろう者福祉協会、障がい福祉課と連携した手話講座の実施（各区1館）

（2）地域の教育力を高め合い、まちづくりにつながる事業の推進

地域の多様な人、団体などが連携し、地域に対する愛着を育みながら、学んだ成果を学校、地域及びまちづくりに活かせる環境を整える。

- ① 地域固有の自然や文化を活用し、地域への理解を深める講座の実施
- ② ボランティアや地域人材等の養成講座の実施及び活動機会の情報提供
- ③ 公民館、学校、地域等での学びを生かす活動の拡充

（3）ライフステージに応じた学びと交流を促進する事業の充実

ライフステージに応じ、乳幼児から高齢者まで、障がいの有無等に関わらず、幅広い世代の誰もが参加できる事業の充実を図る。

また、事業を通じて住民相互の理解や交流を深め、豊かな地域コミュニティづくりに資するよう、異世代の交流を促進する事業を展開する。

- ① 年齢や障がいの有無、国籍等に関わらず、誰もが学びの場を得られるよう多様な媒体を用いた情報提供及びそれぞれのニーズを踏まえた講座の実施
- ② 幅広い世代の交流を図る講座の実施
- ③ ICTを活用したデジタル化を実感できる講座の実施

(1) 学習機会(公民館講座)の充実

人間性豊かな生活を営むための「現代的課題」や住みよい地域社会をつくるための「地域課題」に対応した学習機会を提供する。

また、大学等の教育機関をはじめ、関係団体等と連携することにより、幅広い分野や専門性の高い講座を実施し、学習機会の充実を図る

① 大学や高校等の教育機関、関係課や関係機関(NPO)等と連携した講座の実施

各公民館で、大学や高校等の教育機関、関係課や関係機関(NPO)等と連携し、高齢化に伴う課題の解決や地域のニーズなど、それぞれの地域の実態に応じ、当該機関の強みを生かした取り組みが行われた。

楽しく体験!環境学習とエコ工作。限りある資源を大切にしよう! (南部公民館)

熊本市環境総合センターを招聘しての出前講座で紫外線の学習でのUVストラップ作りと廃プラスチックを活用したエコ万華鏡作りを行った。プラスチック製品ができるまでの仕組みを学習し、ペットボトルを使用した万華鏡を作成。フィルムや色をつけた廃プラスチックなどを中に入れた。



紫外線の学習では、目に見えない紫外線だからこそ気を付けないといけないことや紫外線で手の汚れが見えることなど、便利なこともあることを学習した。

ベビーからのイングリッシュ (幸田公民館)

「こども文化会館で開かれている『ベビーからのイングリッシュ講座』が応募者多数の為、抽選から漏れて講座を受けられないので幸田公民館で講座を開設してほしい」との依頼があり、同会館と連携して講座を開設した。言語能力に関しては、「ある一定の発達の時期を越えると身につけることが難しくなってしまう。バイリンガルの神経回路というのは乳幼児の時期に発達するため、言語に触れることは年齢が低いほど、より神経回路を発達させることができる」とのこと。



共生社会に向けて、幼い頃から、英語にふれ、これからの子育てに役立てられることを狙いとした。

こどもの足が速くなる!?足育講座 (西部公民館)

一般財団法人熊本市スポーツ財団との連携により実施した講座。スポーツ財団では、いくつもの健康づくりに関するプログラムを用意しており、今回はこどもの足育について、親子で参加していただく機会とした。シューズの裏の減り方から歩き方のバランスを確認したり、裸足になって足のアーチを見ていただいたりと、親子での活動ならではの学習の場とした。親子で参加する講座であったため、保護者がこどもの足の状態を把握するよい機会となったと考える。



おでかけ公民館「視覚障害についての理解と点字体験」 (秋津公民館)

「一般社団法人 Vision Support」から2人の方(お一人は視覚がいをもち方)に来ていただき、視覚障がいをもつ方が普段どのようなことを不安に感じているのか。また、視覚障がいをもつ方との接し方や案内の仕方について講話を実施した。



その後、子どもたち一人一人に点字盤(熊本県点字図書館から借用)を配り、点字体験をしてもらった。視覚障がいをもつ方の思いや、どのようなことに気をつけて介助すると良いのかを子どもたちは具体的に学ぶことができた。

② 震災での体験や教訓を生かした防災意識を持続させるための講座の実施

2016年の熊本地震から月日も経ち、当時の辛い体験を乗り越えると共に、災害への危機意識が低下しているように感じる。2022年、大型台風予報が出た時、お店の水・テープ・食料品が在庫不足のニュースが流れた。防災意識を持続させるため公民館で毎年講座を開いても、参加人数は少なくなっている。

そこで公民館では、専門家の講話に加え、防災食や火起こし、防災アプリ、VR や心肺蘇生法体験などの実技を取り入れたり、自治会や婦人会等関係者へ直接声かけをしたりするなど防災意識を低下させないような講座を行った。

みんなにやさしい防災講座（東部公民館）

「男女共同参画センターはあもにい」に出前講座を依頼。熊本地震の際、実際に避難所運営に携わった経験を基に、災害時、避難所におけるジェンダーをどのように考えていけばいいかについて、講義していただいた。とてもわかりやすいパンフレットに沿って講義が進んでいくため、受講生も理解しやすく、しっかりと自分の考えを深めることができていた。また、途中でカードを使ったワークもあったため、より主体的に避難所のDV防止や避難所における多様性について考え、防災意識の向上を図ることができた。



自治会活動や防災に活かす LINE 活用講座（天明公民館）

地域担当職員と連携して、天明管内の自治会向けに実施した。日頃の自治会活動における地域の方への連絡事項や行事の勧誘など、また、災害時や防災に関して地域の方々へ緊急の連絡や事前の情報共有などを行うのに、SNS アプリ「LINE」を活用することで、情報の相互発信を行う事ができる機能を学ぶ機会とした。



中央消防署出動!「何倍も楽しくなる防災訓練の巻」（大江公民館）

小学4年生～6年生を対象に、①心肺蘇生法体験、②VR体験、③防火着衣体験・消防車両見学、④水消火器訓練・簡易担架作製体験を中央消防署指導のもとで行った。「心臓マッサージのやり方を学べた。」「将来消防士になってみんなを助けたい。」と言う感想と共に、防災意識の向上と命の大切さについて学ぶことができた。



簡単に作れる防災食（龍田公民館）

災害時に、ポリ袋に食材を入れて簡単に作ることができる「バッククッキング」についての学習と調理実習。災害時の食事は「保存食」をイメージしてしまいがちだが、保存食に頼らなくても、身近な材料をうまく利用する方法を学ぶ。また、災害時は水がとても貴重になる。限られた水、限られた調理道具、調理環境の中でも、なるべくおいしくあたたかい料理を食べることができる方法について学ぶことで、震災での体験や教訓を語り合い、防災意識を高める。



おでかけ公民館講座「こどものための防災キャンプ in 城東小」(中央公民館)

こども主体の防災訓練で、事前ミーティングを経て「ミッションクリア」をめざすゲーム感覚の防災キャンプを行った。防災ゲームや炊き出しの体験、夜のお楽しみ会などを通して楽しく学ぶことができた。

内容の詳細として、こどもミーティング、防災ゲーム、4つのミッション(避難所設営、支援物資の配給管理、炊き出し、健康管理)、夜のお楽しみ会、就寝体験、目覚めのリラックス体操、朝ご飯(サバイバル飯炊き)、反省会。講師や支援者は、防災士や PTA、中央公民館関連企業(熊本シティエフエム)、地域のボランティアが担当した。



③ あらゆる人権課題を踏まえ、人権意識の高揚を図る講演会及び講座の実施

様々な人権問題に対する正しい理解と認識をどのように深めていくか、多くの人たちへの啓発を目的に各公民館で実践が行われた。

特に今年度は各区で公民館が協働して人権啓発講演会を実施することができた。

人権啓発講演会「歌舞伎町と言う町に寄り添う」(北部公民館)

「歌舞伎町と言う町に寄り添う」～あらゆるいきづらさを持つ人たちと向き合う夜回りと相談室の話～という講演テーマのもと話を聞く中で、参加者も、自分の事と重ねながらしっかり考えることができた。

講師の渡邊さんが関わられている青年をゲストに迎え、少年院時代や現在の仕事のこと、将来の目標等についての話を聞いた。当事者の生の声だったので、参加者もとても真剣な表情で話に聞き入っていた。



おでかけ公民館「長崎原爆被害のお話し いま私が伝えたいこと」(植木公民館・幸田公民館)

当時、国鉄職員として長崎市内で勤務されていた深堀弘泰さんの体験を聴き、平和の尊さを学ぶ。深堀さんは、長崎で被爆し、爆心地に向かう第一救援列車の乗員として地獄のような体験をされ、さらに爆心地近くに自宅があったため、大切な家族を失われた。

語り部の工藤さんは、同じ長崎の被爆者である。被爆者として自分の体験談も交え、深堀さんの体験を「祖父が孫に語る」というストーリーの紙芝居にして平和の尊さ伝えていただいた。



「人権バンド ゆう」コンサート(託麻公民館)

人権講演会というと堅苦しい雰囲気を感じる方もおられるが、歌がメインのコンサートを開催したことで、参加者もリラックスして参加できたとの声が聞かれた。

淡々とした語り口の中にも熱い思いが伝わってきて、参加者の中には歌を聴きながら涙している方もおられた。



*④ 県・市ろう者福祉協会、障がい福祉課と連携した手話講座の実施(各区1館)

本市では、「手話が言語である」との認識に基づき、令和2年4月1日に「熊本市手話言語条例」を施行し、手話に対する理解と普及促進を通じて、ろう者の方が手話を使用して安心して暮らすことのできる地域社会の実現を目指している。

公民館においても、これまで館独自での手話講座を開催していたが、より多くの方に手話に関する理

解と関心を深めていただきたいという思いから、県・市のろう者福祉協会と連携した10回シリーズの入門講座を各区で開催した。(中央区:五福、東区:東部、西区:西部、南区:幸田、北区:植木)

いずれの館も20名前後の受講申込みがあり、手話への興味関心の高さを窺い知ることができた。令和6年度も開催館を変え、各区で同様の講座を実施する予定である。

「手話入門」と銘打ったこともあり、初めて手話の学習会に参加する方が大半であった。手話が登場するテレビドラマが話題となり、興味関心を持たれた方も多いうであった。

参加者からは、「難しかったけれど、楽しかった」「これからも続けていきたい」などの感想が多く聞かれ、人前で発表することへの緊張感を持ちつつ温かい雰囲気の中で講座が進んでいった。回数を重ねるごとに参加者同士の交流も深まり、最終回はお互いに手話によるコミュニケーションを楽しむ姿が見られた。

受講後に全国手話検定を受検された方が十数名見られたとともに、将来的には手話奉仕員養成講座に挑戦してみたいという方もいた。また、五福公民館では、参加者同士でサークルを作り、講座修了後も自主的な学習会が開かれた。



成果と今後の課題

《成果》

- ① 教育機関や関係機関などと連携し、当該機関の強みを生かした取り組みをし、地域の課題解決や要望に応えることができた。
- ② 防災食作りや火起こしの実技、専門家である消防士・市職員・防災士と連携した講座を行った。学校・家庭教育学級・来館者等に直接声をかけたり、現地で講座を実施したりして参加者を募った。
- ③ 部落差別(同和問題)をはじめ様々な人権課題についての正しい理解と人権意識の高揚をめざすため、人権について身近に感じるため様々に工夫した取り組みを実施することができた。毎月の公民館だより等で「じんけんコラム」を掲載し、公民館全体で統一した啓発ができた。
- ④ 手話講座ではどの館も回を追うごとに講師の先生と参加者、参加者同士の関係性が深まり、和気藹々とした雰囲気の中で学習が進められた。

《課題》

- ① 学校や関係機関との事前の打ち合わせ等の手段の工夫が必要だと感じる。とくに、学校との打ち合わせはなかなか時間が取れない。
- ② 実技・料理等を講座に取り入れ、広報を工夫しても参加数は厳しい。防災意識は風化しやすく広報にも配慮が必要である。参加数は少なくとも講座を続け、学びの機会を止めないことが重要と感じる。
- ③ 人権啓発の視点から、公民館が地域の人権啓発の拠点であることを周知するとともに、誰もが参加しやすい企画や広報などの工夫を継続していく必要がある。
- ④ ステップアップ手話講座開催を望む声も多かった。中級講座を企画したり、ろう者福祉協会が主催する講座やサークルの紹介を行ったりするなど、学びの継続支援を行っていく必要がある。

(2) 地域の教育力を高め合い、まちづくりにつながる事業の推進

地域の多様な人、団体などが連携し、地域に対する愛着を育みながら、学んだ成果を学校、地域及びまちづくりに活かせる環境を整える。

① 地域固有の自然や文化を活用し、地域への理解を深める講座の実施

今年度も子ども達のみならず、高齢者も一緒に学んだり、体験したりする機会を設定することができ、自然や特産品、町並みや史跡など地域の魅力を再認識できる講座が具体的に実施された。

ごぶくフットパスよかとこさるき（五福公民館）

五福校区を中心に、地域の歴史や景観、お店や旧跡などを訪ね歩き、地域の持つ良さに気づき、参加者と地域人材をつなぎ、何度も地域を訪れていただくきっかけとなる講座としている。

地域の歴史についてよくご存じの方にご一緒いただき、参加者からのお尋ねにもお答えいただき、良い関係が生まれている。

また、地域の寺社や店舗を訪ねる時には、ご住職や店員さんにご協力を仰いで実施している。年に一度、五福小学校のこどもたちが案内をする機会も設けている。



ふるさと探求!天明の歴史と自然(野鳥)（天明公民館）

有明海に接する天明管内は、昔は海であった所を干拓し、農地として広げていった地域である。この干拓に様々な形で携わった地域の歴史が各種文献に僅かに残る。その記録をもとに、地域の歴史をわかりやすい資料にまとめられた地域在住の元校長先生である白河部健さんに、今回の講師を依頼し、講演をしていただいた。

この講演を通して、地域の方々が地域の特徴や魅力を再認識することで、地域の発展や歴史の継承、自然環境保護などについて市民意識の醸成につなげるとともに、地域への愛着や理解を深めることができる良い機会とする。



親子和菓子作り（南部公民館）

地元川尻には、和菓子職人衆である「開懐世利六菓匠」がある。その一人、天明堂の北川さんから直接、和菓子作りを教えていただいた。

まず初めに、実演をしていただいた。本物そっくりの鯉を作っていただき、こどもたちも保護者の皆さんも、模様が綺麗にできる様子を見て驚いていた。とても丁寧に指導していただき、こどもたちも楽しく作品を作ることができていた。

細かな作業も、保護者と一緒に取り組むことで、上手に作り上げていた。ミカン、花、キャラクターなど、自由に、器用に作っていた。



飽田地区の長茄子について知ろう（飽田公民館）

飽田地区は長茄子生産が有名で、ヘタに棘がなく収穫しやすい「PC 筑陽」と言う新種を開発し、飽田地区の行事名を「ながなすコンサート」とするなど地域の方にも長茄子は親しみがある。

しかし、長茄子が有名と知ってはいるが、なぜ有名になったかは知らない方が多く、地域の学校から長茄子について詳しい講師を紹介して欲しいと相談があり、JA 熊本市野菜選果施設の職員の方を紹介した。3年生対象ということで、講師とも相談してことばによる説明を減らし、PowerPoint で視覚的にも分かりやすい資料を作成し、講座を行った。また、クイズを多めに入れるなど、こどもたちが聞くだけでなく参加体験できる講座を実施した。



尾ノ上大好き!尾ノ上の町のじまんをしよう (東部公民館)

尾ノ上小学校3年生の先生方から、総合的な学習の時間で校区のことについて学習を進めたいが、どのように展開したらいいか悩んでいると相談があった。そこで、学習計画を一緒に考え、役割分担をした。まず、地域担当職員に校区の概要を話してもらった。そこで出た校区に対する疑問・質問を自治会長に相談し、学校で一堂に会し、答えてもらう機会を設けた。



今後は、地域のイベントについて調べていくことになっているため、イベントの主催者を学校へ派遣する予定である。さらには、こどもたちがまとめた魅力 map を地域へ発表する機会も計画中であり、自治会長などとの連絡調整を行う予定である。

木原不動尊 de 写経体験 (富合公民館)

日本三大不動尊の由縁と歴史について、本堂において角本尚隆住職から講話をいただいた。その後、天台宗で言う写経「仏説聖不動經」をするため建物「讃佛壁」へ移動した。写経の歴史と意義、作法などの説明を受けたのち、45~60分程度の写経体験に取り組んだ。



厳かな環境下での講話と写経体験を上記住職及び角本ひろえさんの2名に依頼して実施した。その都度、受講生からのお尋ねを受けては解説いただきながらのアットホームな温かな雰囲気での講座となった。

おでかけ公民館「桜木東の歴史を調べよう」(秋津公民館)

桜木東小3年生の先生方から総合的な学習の時間で校区のことについて学習を進めたいが、桜木東校区の歴史について調べているがなかなか見つからないと相談があった。そこで、前社会教育主事が中心となって作成した「あさひばマップ」を活用したり、地域担当職員に相談したりして学習内容を考えた。



まず、学年全体に桜木東校区の歴史について話をしたあと、こどもたちは3つのテーマに分かれて学習を進めていった。

そして、その中の1つのグループが桜木東の歴史について自分たちで学習を深め、「沼山津神社」について調べたいということになり、地域の方に協力していただき、沼山津神社の現地学習を行うことができた。地域の事業所とささえりあと協力して作成した。

こどもたちは、桜木東校区の歴史について話を聞いたあと、自分たちの住む校区にも古くからの歴史があることに気づき、これまで以上に誇りを持つことができたようだった。

② ボランティアや地域人材等の養成講座の実施及び活動機会の情報提供

地域には、自分たちの好きなことや得意なことを生かして活動している団体や個人がいる。そのような人たちとの対話を通して、公民館は地域の活性化や街づくりに興味を持ってもらう機会の創出に取り組んでいる。同時に学校と地域をつないで、こどもたちにも地域を意識してもらうような体験事業を授業や講座で実施している。

みんなでやろう!河内元気体操! (河内公民館)

地域の事業所とささえりあと協力して作成した「河内元気体操」を地域の方々へ伝え、各地域で実践してもらうことを目的として開催した。参加者には、それぞれの地域で使ってもらうように動画 DVD と音源 CD をプレゼントした。

- ①「河内元気体操」の紹介
- ②歌ってみよう
- ③体操のやり方を学ぼう
- ④みんなで体操しよう



おはなしたんぽぽ 20 周年記念 みんなで楽しむ絵本の読み聞かせ（花園公民館）

20 年続くおはなしたんぽぽの方が、絵本の読み聞かせ、エプロンシアター、手遊び歌、ペープサート、しかけ絵本、パネルシアター、歌などを行った。

こどもたちが飽きないで集中して耳を傾けることができるようにバラエティに富んだチョイスがなされていた。会員一人一人の学びが生かされた実演だった。



茶つみフットパス in 城南（城南公民館）

共同主催として「城南地域ブランド力向上委員会 TEAM 城南ワンダホー」「城南まちづくりセンター」「城南図書館」「城南児童館」及び「地域のボランティア高校生・大学生」と共に取り組んだ。参加者と共に城南町を楽しく歩き巡り、簡素的に史跡や諸要所を巡り城南町の紹介を兼ねて親しんでもらった。



メインは、地域の茶畑での「茶摘み」（後に製茶工場から参加者に茶を送付）を通して、冷やし「茶漬け」を食べることにつなげることである。また、参加者には新たな城南町の良さの発見や観光等の誘致に誘うことである。

この活動を通して、ワンダホーの取組やボランティア学生による参加者への地域紹介ができ、さらには地域発掘・精通することで地域愛を育んだり地域人材の養成の機会の一助になっている。

植木の史跡・名所の歴史を学べ（ボランティア養成講座）（植木公民館）

植木の史跡・名所についての歴史的学びを通して（含む現地学習会）、植木の良さを知ってもらう。また、その学んだことをもとに、田原坂ガイド等のボランティア活動を行うことができる人を養成する講座としている。

本年度は 7 回シリーズで、「豊前街道」「豊前街道を歩く〔現地〕」「西南戦争の起こり」「味取町と植木町の起こり」「日本赤十字の誕生」「西南戦争こぼれ話」「西南戦争 阿蘇方面の戦い」の内容を実施した。



夜のおはなし会（清水公民館）

夏の夜にお届けする、大人のためのおはなし会を開催。テーマは主に怖い話、怪談とした。おはなし会のメンバーが一人一話を受け持って、約 10 分間ずつおはなしをした。一人一人、修練を重ねてきたことがよく分かる、個性が際立つ発表だった。



北部おしゃべり・窓ふき隊（北部公民館）

地域のボランティア養成をめざして、北部公民館主催、北部高校生ボランティアサークルわいわいHVC、熊本市立北部中学校JRC部が共催して「北部おしゃべり・窓ふき隊」を実施している。

北部公民館の近くにあるグループホーム サンライズ硯川(偶数月)、特別養護老人ホーム くわのみ荘(奇数月)を月に 1 回 2 時間程度、施設の窓の窓ふきボランティアと施設入所者、利用者の方々とのおしゃべりボランティアを中心に実施している。

コロナ禍になってからは、施設の外側からの窓ふきのみのボランティア活動となっている。



中・高校生ボランティアによる「冬休み勉強お助け隊」（大江公民館）

大江公民館管内の3小学校に「冬休み勉強お助け隊」というチラシを作成し配布した。当初の定員は20名だったが、42名の応募があり、真和高校に相談し定員を増やし、部屋数も増やした。

「仲良くなろう」をテーマに高校生と小学生が学習課題を解決していくことを通して仲良くなることを第一の目標とし、お互いに会話をたくさんしてもらうことにした。

高校生ボランティアとして真和中・高校生を講師として依頼し、事前に高校へ行き内容等について事前協議を行った。高校生ボランティアには、市長名でボランティア証明書を発行した。



高校生による高齢者スマホ教室（中央公民館）

事業展開における課題としてボランティア関連事業と異世代間交流事業について方策を模索している。高齢者のスマホに対する悩みや困り感をスマホの得意な高校生がボランティアで、また孫世代の高校生とマンツーマンで和やかに楽しみながら学び、解決する高齢者のスマホ教室を企画した。熊本市立必由館高校のJRC部と同校ボランティア有志の皆さんの協力を実現した。

高齢者からのスマホに関する悩みや困りごとに、先生役の高校生が見事に応えた。受講した高齢者の満足度が非常に高く、孫世代とのやり取りも好評で次回の実施を熱望する声が多くあった。



武蔵塚ジュニアボランティアガイド（龍田公民館）

龍田公民館生涯学習サークル「歴史を学ぶ会」に講師をお願いし（体調不良により、途中社会教育主事が交代）、武蔵塚公園の歴史や、公園に眠る宮本武蔵の人物について、公民館の会議室で学習を行った。3回目の最終日には、武蔵塚公園に来園された方に対して「ジュニアボランティアガイド」として武蔵塚公園の案内を行い、学習した成果を発表した。自分でシナリオを考え、わかりやすい案内になるよう工夫した。



③ 公民館、学校、地域等での学びを生かす活動の拡充

学んだことを地域に還元する場を自ら作り出すのはなかなか難しいが、公民館がリードしながら生涯学習の核となる人材を育成したり、活動の場を用意したりすることは、これからとても大切な取組となる。

PC・スマホよろず相談（西部公民館）

西部公民館では長年「パソコンボランティア」として活動を続けてきた方々が3人残っている。コロナ禍まではワードやエクセルの基礎といった講座を担当していたが、年々参加者が減少傾向であったため、内容を変更して活動を継続している。スマートフォンの相談は社会教育主事が主となって対応をしている。



北区こどもチャレンジ公民館 2023（植木公民館）

体験活動の充実をはじめ、今まで培ってきた力をもとに、想像力、企画力、実行力等の育成を目指し、こどもたちから「こどもチャレンジ公民館プランナー」を募集し、そのプランナーを中心に事業を実施した。

植木公民館の「こチャレ」は、熊本保健大学ボランティアサークル Rideto および NPO 法人 u&uN スポ植木に協力していただき、全18回（イベント3回を含む）の活動を行った。

イベント1「ハロウィンまつり お化け屋敷&クジ」 イベント2「クリスマスプレゼントボックス作り」
イベント3「楽しいお菓子作り」



成果と今後の課題

《成果》

- ① こどもたちが地域の歴史に触れてその地域に愛着を持てた様子が見え、親子で講座に参加して一緒に作業することで家族のきずなが深まったこと、普段は接することのない地域の人との交流を通して、大人もこどもも知り合いになれたこと、学んだことを周りの人や観光客など他の人に伝えようとする意欲を持つことができたことが成果として挙げられる。
- ② 講座等を通して、地域の良さを再確認できたと参加者の喜ぶ声を聞くことができた。ボランティア活動をする若者からは、高齢者との触れ合いがうれしかったという感想が多数あった。また、継続的な取組は若者の意欲を引き出していることが成果として挙げられる。
- ③ ボランティアで参加してもらったが、地域で活動する人材として、今後が期待できる。
こどもチャレンジ事業は、小学生プランナーが、主体的に「やりたいこと」を見つけ、計画、準備、実施、反省することができる良い事業である。この経験で、協調性はもちろんのこと、想像力、企画力、実行力等、多くの力を伸ばし経験値を高めることができたことが成果として挙げられる。
また、普段は一緒に学ぶことができない他校の友達と協力しながら進め、良い交友関係を築くことができる場としても有効である。

《課題》

- ① 課題としては、講座をどのように広報するのか（口コミや市政だよりでの募集が圧倒的に多い）、講師に高齢者が多く、思うように活動の継続が望めない、天候に左右される活動について延期する以外に方法が思いつかない、学校と地域の情報の共有をどう進めていくか、その調整が難しいといった点等が挙げられる。
- ② ボランティア等の養成及びその活動機会の情報提供についても、講師の高齢化、引き継ぐものが見つからないのが課題である。
- ③ 学びを生かす活動の充実についても、高齢化していく人材の意思を引き継ぐ若い世代を取り込む手立てが必要である。たくさんの人に興味をもってもらうために、活動の魅力を発信する方法を試行錯誤するとともに、面白さや楽しさ、充実感など味わえることを地道に気長にアピールしていく必要がある。
こどもチャレンジ事業については、予算執行に関することやマンパワー不足が課題である。

(3) ライフステージに応じた学びと交流を促進する事業の充実

ライフステージに応じ、乳幼児から高齢者まで、障がいの有無等に関わらず、幅広い世代の誰もが参加できる事業の充実を図る。

また、事業を通じて住民相互の理解や交流を深め、豊かな地域コミュニティづくりに資するよう、異世代の交流を促進する事業を展開する。

① 年齢や障がいの有無、国籍等に関わらず、誰もが学びの場を得られるよう多様な媒体を用いた情報提供及びそれぞれのニーズを踏まえた講座の実施

社会全体で共生社会の実現に向けて取り組むために、高齢者や障がいのある方、外国人など社会的に制約を受けやすい方への配慮も含め、幅広い対象に向けての学習機会の提供を行っていく。

オンラインでつながろう(河内公民館)

一昨年度から実施している講座で、オンラインで河内公民館・芳野コミュニティセンター・河内コミセン・地域の高齢者施設(11月現在5団体)・個人参加の方々と zoom で繋いで事業を実施している。今年度は学期に一度、芳野中フレンドリーオンラインの生徒さんたちにも授業の一環として参加してもらっている。



内容は、健康体操をメインとして毎月講師を変え、河内の地誌や今月の歌等のコーナーを作り、誰もが分かるように声を大きくしたり、テロップをつけたりする等の工夫をしている。今年度は学校休業月に小学生に講師として参加してもらったり、中学生が作った読み聞かせ動画を配信したりして、違う年代の方にも参加してもらえるように企画してみた。

初級手話講座(五福公民館)

大学生から70代の高齢者の方まで20人以上の方が参加。

講師を担って下さったのは、聴覚障がいのある方で、日常での実践的な手話を教えてくださり、全ての世代の方々が楽しく学ぶことができた。

手話を使ったあいさつや単語、数字の数え方やカレンダー、時刻の表し方など、具体的に教えていただいた。



音声言語ではなかなか意思疎通ができない中、PCでの情報提供やDVDを使った課題の提供など様々な媒体を用いた交流の場を準備して下さった。

受講生も聞いていて分からない部分は、その都度質問し、積極的な学びの姿勢が見られた。

聴覚障がいのある家族や友だちがおられる方、ドラマを見て手話に興味を持たれた方など、それぞれのニーズに沿った学びが展開された。

各種表示の多言語化(各公民館)

TSMCの進出等により、熊本にも外国につながる人々が増えている。公民館に訪問される外国人の方々も、今後増えてくることが考えられる。

そういった方々が来館するハードルを下げられるように、館内の表示の多言語化を行っている。

日本語・英語・中国語・韓国語で示されているので、幅広い人々に認知されやすくなった。

非常口
Emergency
Exit
紧急出口
비상구



④ 幅広い世代の交流を図る講座の実施

住民同士が「つどう」「まなぶ」「むすぶ」ことを促し、人づくり・地域づくりに貢献するという公民館の役割を果たすためには、幅広い世代の活動への参加が期待されている。

特にこどもや若い世代の利用促進を図る必要があり、様々な世代が参加できる機会や交流のきっかけづくりに取り組んでいく。

市民企画講座「こども食堂フライングダッチマン」(花園公民館)

「地域のつながりをつくりたい。交流の場をつくりたい。みんなが安心して暮らせる町をつくりたい。」、そんな思いを食で応援したい青年の願いで実施したのが、この「こども食堂フライングダッチマン」という講座だ。

花園公民館調理実習室で、代表の森山さんが子どもたちのために食事を用意した。18歳以下の子どもたちは無料、大人には300円の寄付をお願いした。また、フードバンクからの商品も配布した。

こども食堂に興味ある人が森山さんと一緒に考えながら、こども食堂の運営を実際に体験しながら学ぶ場として、月1回公民館の中にこども食堂を用意した。

毎回、ボランティアを募った。20代～80代までのこども食堂に関心のある人が集まり、調理や配膳等の手伝いを行った。こども食堂の取り組みを通して、こども食堂の運営に関心のある地域の人々が少しずつつながることができた。



南区こどもチャレンジ公民館プランナー企画「中無田閘門 de 川三昧」(富合公民館)

南区こどもチャレンジ公民館のプランナーの企画で秋のイベントとして恒例になりつつある中無田閘門プレイパークでのカヌー体験・環境学習・弓矢遊びを実施した。

昨年度より大学生を補助講師として位置づけて幅広い世代の交流を推進するというねらいも継続して盛り込むこととした。

最終参加者 プランナー16人、一般参加26人 このメンバーを3グループに編成し、プランナーがリーダーシップを発揮し、大学生3人が見守りとフォロアーシップを行ったイベントである。

プランナーのフォローを大学生に担わせたことは人員確認などの折にしっかり機能していたし、年齢が近いので相談相手にもなってくれていた。



芸術の秋にミュージカル体験 ～「サウンドオブミュージック」より～ (託麻公民館)

元劇団四季 小松野希海さんと一緒にミュージカルの世界を体験する。

活動内容は、次のとおりである。

- リズムに合わせて自己紹介
- 「サウンドオブミュージック」の物語を聞き、挿入歌を歌う。
- 振りをつけて挿入歌を歌う(思い思いに)。
- 各グループで話し合いながら振り付けを決めていく。
- グループごとにステージで発表する。

小学生から70代までの受講者がいくつかのグループに分かれて話し合いを重ね、一つの場面を作り上げていく過程を見ていたが、どのグループも活発に話し合いを行っていた。発言するのをためらっている小学生に高校生が声をかける場面もあった。

公民館でのミュージカル体験がきっかけで、地域復興のミュージカルに参加したり、ボランティア活動に参加したりする受講生も見られた。



夏休み宿題対策 ～みんなで宿題を終わらせよう～（城南公民館）

教職退職者・地域の高校生等が「見守り先生」として、市内在住参加者の小学生1～3年生を対象に夏休みの宿題（図画工作・習字・自由研究を除く）学習支援を行った（3日間実施。後半は家庭の学習課題や問題集を持参する小学生もいたが、同様に学習支援サポートを行った。）



3日間実施したこと、小学生と「見守りの先生」との良好な関係ができて、学習支援以外の他愛の無い会話で話がはずんだりし、和気藹々とした雰囲気の中で活動を行うことができていた。

③ ICTを活用したデジタル化を実感できる講座の実施

デジタル化の恩恵を感じていただくために、特にスマートフォン初心者やデジタルになじみの薄い方を対象とした講座を企画している。

PCスクールや通信事業者等が講師となる講座のほか、高校生や大学生ボランティアが支援者となり、世代を超えたつながりが深まる講座も増えてきている。

無田口地区 スマートフォン講座（飽田公民館）

南区の目標としてデジタルデバイド解消が掲げられる。高齢者の方にとって、スマートフォン等を使いこなすのが難しいと感じる方がおられ、いざ学ぼうとしても一人ではなかなか学べない。公民館の主催講座や携帯ショップ等、学ぶ場所に行くのも大変という方もおられる。



そこでスマートフォンの使い方講座を、無田口公民館が毎月行っているサロンに出かけて実施した。分からない時には大学生が支援を行い、11月にスマートフォン初級、12月にLINEと2回の講座を行った。

ワードで年賀状作り（清水公民館）

パソコン初心者を対象に、5月に「ワード入門講座」を実施した。

半年を経て11月に開催した本講座「ワードで年賀状作り」は、5月講座の延長として、「ワードのスキルを身につけ、オリジナルの年賀状を作り、12月までに投函する」ことを目標とした。

家で予習復習をしたり、講座の開始1時間前に会場入りしたりするほど熱心な参加者も多く見られた。



成果と今後の課題

《成果》

- ① 来館者に向けての国際化意識の涵養することができている。（多言語表示の説明）
多様な他者と関わることの良さを実感し、より高めあう集団作りを後押しする場づくりが成功している。
（手話講座）
- ② 日常では関われない相手と関わるのが、既存の経験と重ならない経験を生み、自己実現を行う場づくりを行うことができた。（ミュージカル・メイフレ）
教えることを知り、自分の将来について見つめなおす機会となる参加者がいた。公民館での活動が生き方に影響を与える可能性がある。（スマホ講座での高齢者と大学生・高校生との関わり）

- ③ 積極的な参加が多数あり、日常生活ですぐに実践できる知識とスキルを持ち帰ってもらうことができた。オンラインを活用することにより、多様な参加の仕方を促すことができている。多くの方にリアルタイムでの活動を提供できるのは、一体感を生んでいる。

《課題》

- ① 参加者だけでなく、協力者を募る周知広報の方法のあり方について検討する必要がある。
- ② 活動の環境、通信の環境など、うまく設定できていない場合がたびたびあった。
- ③ 多世代の交流を進める際に、それぞれの都合を調整することが難しい場合があった。うまくマッチする時期や周知方法を確認していきたい。

報 告

(1) 生涯学習自主講座の運用開始について

①運用開始

令和6年（2024年）4月

②講座開設基準

定員や講師年齢の上限など従来の開設基準から緩和

③効果

各公民館の地域性を考慮し、それぞれの実情に合わせた対応を可能としたことにより、既存講座の存続と新規利用者のすそ野を広げるもの

(2) 第2次熊本市生涯学習推進計画の策定について

①計画期間

令和6年度（2024年度）～令和13年度（2031年度）

②基本理念

「学びと活動の循環」による、市民一人ひとりが豊かな人生を送ることのできる社会の実現

③公民館との関わり

取組（抜粋）

- ・ 公民館などでのタブレット端末やスマートフォンに関する講座の実施
- ・ こどもチャレンジ公民館講座などの実施
- ・ 子育てに関する学習機会の実施（家庭教育学級）
- ・ 公民館と大学との連携によるリカレント教育の実施
- ・ 公民館を活用したまちづくり活動における多文化共生の推進
- ・ 伝統的な日本文化の体験・継承
- ・ 公民館における主催講座の拡充
- ・ 手話講座の開催と手話奉仕員などの活躍の場の提供
- ・ 地域の公民館や学校などでの文化芸術に接する機会の提供